

長嶋引退の年に産ぶ声をあげた

「巨人軍は永遠に不滅です。」長嶋がグラウンドを後にした1974年に生まれた189人(昨年より18人少ない)が成人の日の1月15日に大人の仲間入りをしました。式典会場の町民会館は、振袖、スーツまたは、はかま姿の若者で華やぎ、「元気!」「久しぶり」と同級生の再会にうれしそうな笑顔が見られました。町長が「若い力を町づくりに積極的にお寄せください。」とあいさつ、その後、宇井孝さん(篠原)が代表して記念品を受領、佐久間千夏さん(新井)、齋藤さおりさん(傍示戸)、奥野法也さん(桑郷)、大木琢生さん(木戸)の4人が20歳の決意を發表しました。最後に成人者を代表して、田山博之さん(篠本2区)がお礼の言葉を述べました。

189人が成人



▲乾杯～
ワイングラスを重ね、共にお祝い



《白浜地区》57人(男28人・女29人)

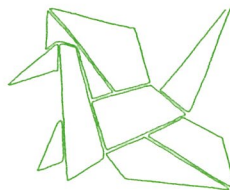


秋葉麻美さん(長塚)

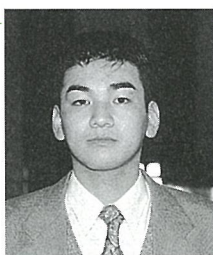
周りからはたらきかけにより意識

学生なので特別の思いはありませんでしたが、選挙や年金の加入など周りからはたらきかけにより成人を意識しました。

式典に参加したことにより、先輩方のいろいろな話が聞け京都から来たかがありました。



《南条地区》20人(男9人・女11人)



石毛俊之(橋場)

スポーツを 社会生活に役立てたい

成人を迎え、まだ大人の仲間入りをした実感が湧きません。今、自分自身を見つめ直し社会に目をつける、「いじめで自殺」

「個人の欲望だけの大量殺人」といった様々な問題が起きている。さらに海外では「民族戦争」「飢饉に苦しむ人々」など悲惨な生活を送る人々が多い事に気付く胸を痛めました。しかし、学生の立場で社会の一員として自立をしていない私ですが、今後、自分の全ての行動に責任を持ち、今できる些細な事から社会に貢献して行こうと思います。幸